

夫婦で勝山生活を満喫

織田 章平さん (29歳)
愛さん (26歳)
= 荒土町新保 =



第29回目は、結婚を機に2人で勝山に住み始めた織田さん夫妻(章平さんは3年前にUターン、愛さんは福井市出身)にお話を伺いました。

▶Uターンしたきっかけは?(章平さん)

大学へ進学した時から勝山を離れ、卒業後も富山県や福岡県で働いてきました。働く中で、転職を考え始め、転職するなら大好きな勝山を拠点にと思い、戻ることに決めました。気の合う仲間がいる勝山に戻ってこれてとても嬉しく思っています。

▶勝山の印象は?(愛さん)

初めは、田舎という漠然とした印象しかありませんでしたが、

章平さんから左義長まつりや秋の相撲大会などの伝統行事、市内飲食店の美味しいご飯など、勝山の魅力を教えてもらい、素敵なおところだと感じています。

特に、左義長まつりは、こんな楽しいお祭りがあったんだと驚かされました。今では毎年の開催を楽しみにしています。

職場が福井市内だったため、勝山以外で暮らすことも考えましたが、勝山の魅力を教えてもらい、何より章平さんの勝山に対する想いが強かったため、勝山へと気持ちが決まっていきました。

中部縦貫自動車道があるため、交通の便がいいことも大きかったです。

▶勝山での生活はどうか?

静かで、川の音が聞こえてくる自然豊かな勝山での生活がとても気に入っています。

今後は、夫婦でジオアリーナのトレーニングルームに通うなど勝山での生活を満喫していきたいと思っています。

プロの総合格闘家!!
「織田ジュラシック」(リングネーム)
章平さんは、仕事とは別に総合格闘家としても活躍中です。

移住に関するお問い合わせは
商工観光・ふるさと創生課
(市役所2階)へ ☎88-8105

平泉寺神明社と別当寺(平泉寺区)明細帳などにより神明社の由緒をたどると、古来境内の末社で48社の一つであり、永禄期(1558~69)および元禄期(1688~1703)に描かれた「白山平泉寺境内図」には、三宮と並んで稻荷神と熊野に挟まれる形で神明社が描かれている。天正2年(1574)、一向宗の焼き打ちにより焼亡した後、同11年顕海により平泉寺が再興される際、神明社は境外末社となった。祭神は天照大神で平泉寺の所属は離れたが、村民の尊信特に厚く氏神として現在に至っている。



落成時の神明社



現在の神明社

写真昭和5年(1930)落成の際のもので当時の氏子数は50戸であった。拝殿には絵馬と昭和初期の写真も数点掛けられており、相撲見物のため村人が群集している様子がかがえる。氏子の方のお話では能舞台も残っていたそうである。本年の秋の例祭は8月23日午後1時30分に開かれた。コロナの影響か子ども御輿の巡幸はなかった。境内には昭和8年建立の「疎水記念碑」や当社興隆に功績を残した「武内鐵也翁功勞碑」の他、往時を偲ぶ整備の行き届いた土俵も残る。神明社の由来と西念寺について「霊応山平泉寺大縁起」には「正覚神明(雨貫童子)」とあり、神明社の別当は正覚院で近世においては正覚神明と称されていた。元禄4年の平泉寺文書の史料には「興廃していた神明が再建される際に玄成院が松尾坊西念に天照大神石像一体を当寺に奉納する」とあり、文政5年(1822)に大破した社殿や鳥居が再建された。

西念寺は古来より自庵道場で、神明社の神宮寺の役割を果たしていたが、享保6年(1721)に西念(3代梅田治右衛門の子智實であろう)以下同行が連判で寺号免許を出願、翌年許可され西念寺となったと考えられる。

ふるさとを訪ねて

地域文化を掘り起こそう

気管支喘息など気道炎症疾患の新たな検査
呼気中の一酸化窒素(呼気NO)検査

福井勝山総合病院 JCHO老健施設長
内科診療部長 坪坂 誠司

気管支喘息は、気道に慢性的な炎症を起こし、気道が敏感になり狭くなることで、咳や息苦しさを繰り返す病気です。

気管支喘息などの気道炎症疾患の診断は、胸部レントゲンや血液検査では困難なことも多く、聴診での喘鳴(ヒューヒュー音)、肺活量検査なども診断の助けにはなるものの当てはまらない例が多々見受けられます。また、アレルギー(気候、ホコリ、カビ、花粉)の関与も多いため、時により症状が改善、悪化することがあります。

そのため、自覚症状で状態を把握する喘息コントロールテスト(ACT)を唯一の治療効果判定として治療薬の変更・増減をしてきました。しかし、このことが患者さまへの病態説明を難しくし、治療継続を促すことの妨げになっていた感がありました。

近年、慢性の気道炎症で一酸化窒素が産生されることが発見され、これを測定することが保険適応となりました。

測定法は、肺活量測定と同じ要領で、マウスピースをくわ

え、大きく息を吸い込み、その後、一定の速度で吐きはじめ、約10秒間息を吐き続けるだけで測定されます。喘息咳喘息を含め治療の中心は、吸入のステロイド剤です。呼気NO検査を定期的に測定することで、診断だけではなく治療効果判定、気管支喘息の増悪、リモデリング(気管支喘息が元に戻らなくなる状態)に移行していないか?などの病状の把握にも役立つとされています。なお、高齢者、喫煙歴の長い方に多いCOPD(肺気腫)との鑑別にはある程度有用です。

あくまでも呼気NO検査は一つの目安ですが以前より測定が容易になり実際、初診で来られる慢性咳嗽の方に負担の少ない検査での治療介入が容易になった印象です。また、呼気NO検査は飲食物などの影響も受けやすいので2時間は絶食、禁煙をお願いしています。

発熱、痰を伴わない咳が続くようなら一度、検査をおすすめします。



勝山公民館 展示コーナー

故 松原祐一さんの「マッチ箱コレクション展」
昭和9年生まれの故人が学生時代に興味を持ったマッチ箱。手に収まる小さな箱の美術性に惹かれ収集されたようです。お楽しみください。
展示期間▶10月12日(月)~22日(木)
松村信子さん主宰、アートフラワー「布華」作品展
白布を染め、花びらを切り取り、それをコテで形を整えます。それらの工程を楽しみながら世界に一輪の「私だけの花」を咲かせています。
展示期間▶10月24日(出)~11月14日(出)
園勝山公民館(教育会館1階) ☎88-0800



いきいき★健康長寿

清潔なお口で感染症予防
高齢になっても口の中を清潔にしておくことは、誤嚥性肺炎やその他の感染症の予防になります。

また、嚥んだり、飲み込んだりする機能を保つことは、全身の健康にも繋がります。健康や感染症予防のため、お口のお手入れや体操に取り組みしましょう。

お手入れ▶毎食後の歯みがき、義歯や舌の清掃など
体操▶歯ごたえのあるものを食べる、電話などで人と話す、鼻歌や早口言葉、パタカラ体操

※パタカラ体操とは、「パ」「タ」「カ」「ラ」と発音することで食べ物を喉の奥まで運ぶ筋肉を鍛えます

園高齢者の総合相談窓口 地域包括支援センター「やすらぎ」(すこやか内) ☎87-0900



人口の動き

	8月末現在	自然動態			社会動態			9月末現在	月間増減
		出生	死亡	計	転入	転出	計		
男	10,813人	6	-7	-1	8	-16	-8	10,804人	-9人
女	11,862人	5	-10	-5	9	-20	-11	11,846人	-16人
合計	22,675人	11	-17	-6	17	-36	-19	22,650人	-25人
世帯数	7,984世帯							7,979世帯	-5世帯

10月の納税

市・県民税▶第3期
納期限▶11月2日(月) □座振替▶10月26日(月)

交通事故発生状況

件数内訳	※高齢者=65歳以上	
	令和2年9月末	前年比
総件数	212件	-74件
人身事故(うち高齢者)	7件(2)	-3件(±0)
死者(うち高齢者)	1人(1)	+1件(+1)
傷者	7人	-4人
物損事故	205件	-71件